

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	3企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっぽんしゃだんほうじんかんぜかい 一般社団法人観世会		団体ウェブサイトURL https://kanze.net/
	代表者職・氏名 代表理事 観世 清和		
制作団体所在地	〒 104-0061	最寄り駅(バス停)	東京メトロ銀座線「銀座駅」
	東京都中央区銀座6-10-1 GINZA SIX 地下3階		
電話番号	03-6274-6579		
ふりがな 公演団体名	いっぽんしゃだんほうじんかんぜかい 一般社団法人観世会		団体ウェブサイトURL https://kanze.net/
	代表者職・氏名 代表理事 観世 清和		
公演団体所在地	〒 104-0061	最寄り駅(バス停)	東京メトロ銀座線「銀座駅」
	東京都中央区銀座6-10-1 GINZA SIX 地下3階		
制作団体 設立年月	1951年2月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表理事 観世 清和 副理事長 観世 三郎太 副理事長 山階 彌右衛門		その他 理事17名、監事2名
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	齊藤 亜美
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	森山 規子
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	齊藤亜美 saito@kanze.net		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>【沿革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1900年(明治33年) 観世会設立 ●1901年(明治34年) 新宿区大曲に観世会館を建設。活動拠点とする ●1951年(昭和26年) 社団法人認定 ●1954年(昭和29年) 戦災で焼失した観世会館を再建 ●1972年(昭和47年) 都市計画にともない渋谷区松濤に舞台を移転。名称を観世能楽堂とする ●2000年(平成12年) 設立100周年を迎える ●2013年(平成25年) 一般社団法人に移行認可 ●2017年(平成29年) 活動拠点を東京都中央区銀座に移転。二十五世観世左近記念観世能楽堂として開場 ●2018年(平成30年) 東京都教育委員会より、観世能楽堂が「文化財等選定基準により選定した文化財等に係る施設」との認定を受ける ●2019年(令和元年)より、中央区教育委員会の委託により区立小学校児童を対象とした学生鑑賞能を継続して実施している ●2022年(令和4年)より、本事業(文化芸術による子供育成推進事業)の実施団体の指定を受ける <p>能の大成者である観阿弥・世阿弥の子孫、二十六世観世宗家 観世清和を家元とする約700年の伝統を受け継ぐ観世流。能楽界を代表する流儀のひとつとして、日本の古典芸能の伝承と発展に精力的に取り組んでいる。</p> <p>「一般社団法人観世会」とは、その観世流を代表する団体のひとつであり、二十六世宗家 観世清和を筆頭に66名の観世流シテ方能楽師によって構成されている。当会が設立されたのは1900年(明治33年)。1951年(昭和26年)には社団法人となり、また2000年(平成12年)には百周年を迎えている。現在は平成29年、銀座に開場した「二十五世観世左近記念 観世能楽堂」にて、公演活動を行なっている。</p>
<p>学校等における 公演実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●2017年(平成29年)8月夏休み親子能体験教室 実施(3日間) ●2018年(平成30年)8月夏休み親子能体験教室 実施(3日間) ●2019年(平成31年)3月春休み親子能体験教室 実施(1日) ●2019年(令和元年)6-7月中央区学生鑑賞能 事前学習訪問授業 実施(全9校) ●2019年(令和元年)7月中央区学生鑑賞能 実施(3日間) ●2019年(令和元年)8月夏休み親子能体験教室 実施(3日間) ●2020年(令和2年)1月いちにち能楽体験 実施(1日) ●2020年度(令和2年度)11-3月中央区学生鑑賞能 事前学習訪問授業 実施(全11校) ●2021年度(令和3年度)11-2月中央区学生鑑賞能 事前学習訪問授業 実施(全14校) ●2022年度(令和4年度)文化庁巡回公演事業 採択 実施(全9校) ●2022年度(令和4年度)2月中央区学生鑑賞能 実施(3日間) ●2023年(令和5年)3月春休み親子能体験教室 実施(1日) ●2023年度(令和5年度)文化庁巡回公演事業 採択 実施(全9校) ●2023年(令和5年)8月夏休み親子能体験教室 実施(3日間) ●2023年(令和5年)8月親子で観よう!能の世界 土蜘蛛編 実施 ●2023年(令和5年)8月-10月こども能楽アカデミー(お稽古会)実施(全6回) ●2023年(令和5年度)11月-2月こども能楽アカデミー(お稽古会) 実施(全6回) ●2023年度(令和5年度)2月中央区学生鑑賞能 実施(3日間) ●2024年(令和6年)3月春休み親子能体験教室 実施(1日) ●2024年(令和6年)5月-7月こども能楽アカデミー(お稽古会) 実施(全6回) ●2024年(令和6年)8月夏休み親子能体験教室 実施(3日間) ●2023年(令和6年)8月親子で観よう!能の世界 安達原編 実施 ●2024年(令和6年)9月-11月こども能楽アカデミー(お稽古会) 実施中(全6回) ●2024年度(令和6年度)文化庁巡回公演事業 採択 実施予定(全2校) ●2024年度(令和6年度)2月中央区学生鑑賞能 実施予定(4日間)
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>無し</p>

参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	無		
	※公開資料有の場合URL			
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:		
		PW:		

別添	あり			
公演・ワークショップの内容		【公演団体名 一般社団法人観世会 】		
対象	小学生(低学年)	-	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	はじめて能 2025 ～観世流能楽師といっしょに「体験する」能楽700年の世界～			
企画のねらい	<p>ワークショップでの学習・体験を踏まえ、本公演では700年の伝統を受け継ぎ、第一線の舞台で活躍する出演者を揃え、本物の芸に触れ、能楽が創り上げてきた芸術の真髄を楽しみながら学ぶ時間を提供して参ります。</p> <p>第一部はワークショップの総まとめとして、謡(うたい)のお稽古、楽器(笛や鼓など)の解説と体験、そして能と狂言の演技体験を実施いたします。また、第二部の能鑑賞を念頭に入れ、地謡(謡)、お囃子、狂言という各パートが舞台上でどのような役割を担っているのかという点を理解できるような解説を随所に加え、一人ひとりが協力して一つの舞台を作り上げる意味合いを伝えることもテーマとしております。</p> <p>第二部は、一流の能楽師による物語の実演です。能の大成者である世阿弥が創作した人気演目である「敦盛(あつもり)」と教科書にも掲載される狂言「柿山伏(かきやまぶし)」を上演し、700年という長い時間のなかで磨き上げてきた伝統的手法による所作や感情表現をご覧ください、現代的な表現との違いや、同時に変わることのない人間の感情などを感じ取ることで、世界最古の演劇ともいわれる能楽の魅力を発見していただくことを目指し、本公演を実施いたします。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>◆【能「敦盛」(あつもり)概要】</p> <p>源氏の武将であった熊谷直実は、一ノ谷の合戦で若年であった平敦盛を討ち取りますが、そのことを後悔して出家して蓮生(れんしょう)と名乗ります。ある日、蓮生は一ノ谷を訪れ、敦盛を弔うことにします。その晩、蓮生が敦盛を弔っていると在りし日の姿で敦盛が現れます。自分のことを思い、お弔いをする蓮生はかつては敵であったが、今は真の友であると敦盛は語り、二人の間にあったわだかまりの感情は消え失せます。そして、一ノ谷の戦いで戦死するまでの生前の様子を舞い語り、引き続き回向を頼んで、姿を消していくのでした。</p> <p>◆【能「敦盛」選定理由】</p> <p>「敦盛」は、室町時代に能を大成した世阿弥が作り上げた名作として高い人気を誇る演目です。主人公は平家物語にも登場する平敦盛で、1184年に源氏と平氏の間で争われた「一ノ谷の合戦」の後日談として創作されています。本作は、戦乱の世の中におこった不幸な出来事をベースとしています。人を殺めてしまった者の深い後悔と、それを許そうとする者の間に生まれる感情の交わりを描き出し、そこには反戦という現代的なテーマが潜んでいることにも気が付くはず。古典の名作というだけでなく、混乱を極める現代にあって若い方々にも深く訴える物語であることも加味し、本公演の演目として選定いたしました。なお、この度の巡回公演では敦盛と熊谷直実が心を通わず、物語のクライマックスとなる後半部分中心に(半能と呼びます)をご覧くださいませ。</p> <p>◆【狂言「柿山伏」(かきやまぶし)概要】</p> <p>修行帰りの山伏が、見事な実をつけた柿の木を見つけます。空腹に耐えきれず、勝手に木に登ってその実を食べ始めたところに、畑の主人がやってきます。主人は盗み食いをする山伏に気づくのですが、そこにいるのは猿だ、カラスだと言って山伏をからかいます。山伏はその都度、猿の真似をしたり、カラスの鳴き声を真似たりしてなんとか急場を逃れようと必死になるのですが、最後には木から落ちて正体がバレてしまうのでした。</p> <p>◆【狂言「柿山伏」選定理由】</p> <p>シリアスな歌劇としての要素を持つ能に対して、狂言は人間の心の弱さをコミカルに描きます。その二つで「能楽」と称されることから、親しみやすい狂言の上演も「能楽」の一端を知って頂く上で大変重要であると考えます。「柿山伏」は、誰でも共感できる「食欲」に焦点を当てつつ、当時権威ある者として捉えられていた修行者の山伏を風刺するような一面も見られ、単なる「お笑い」ではない狂言の一面を知って頂く上で最適の作品であり、教科書にも掲載される演目という点も鑑み選定いたしました。</p>			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>本公演では、第1部にて児童・生徒のみなさんに公演に参加していただきます。参加形式は稽古形式を採用し、能楽師とともに3つの分野のお稽古を体験していただきます。</p> <p>◆【謡のお稽古体験】</p> <p>謡(うたい)とは、能の中で風景の描写や主人公の心情などを、独特のリズムで謡い上げるものです。分かりやすく表現すると、皆さんの慣れ親しんでいる「歌」に相当します。ここでは、そのリズムカルな能の謡の世界を体験していただきます。また、体験の最後には囃子方が登場して、皆さんの謡に合わせて演奏を行い、本番さながらの一体感を醸し出す中で、謡の世界への理解を深めていただきます。</p> <p>◆【エア楽器体験】</p> <p>笛・小鼓・大鼓の3つの和楽器は、能楽の演出に欠かすことのできない存在です。まずはその音色や音の出し方を能楽師が解説し、参加者のみなさんには手元で使い方を真似るスタイルで、演奏方法をいっしょに疑似体験していただきます。</p> <p>◆【能と狂言の演技体験】</p> <p>日本古来の喜怒哀楽の表現を体験していただきます。能と狂言という2つの古典芸能の表現方法の違い、能楽独自の身体を使い方を、手本をご覧くださいながら学んでください。会場となる体育館空間を最大限に利用し、楽しくお稽古していきたいと考えております。</p>			

児童・生徒の参加可能人数	本公演		参加・体験人数目安	600名(客席にて全員が参加・体験)				
			鑑賞人数目安	600名(最大)				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>【第1部】能楽を楽しく学ぶ！ 紹介と演技体験(所要時間:40～45分)</p> <p>◆イントロダクション「能楽を知る」 能面・装束などを用いての能楽紹介</p> <p>◆謡のお稽古体験 ワークショップの際に体験していただいた謡の復習(※次項にて、お囃子の演奏に合わせて謡を体験するための稽古)</p> <p>◆お囃子の紹介・実演デモンストレーション・エア楽器体験 半能「敦盛」の物語のなかで演奏される笛・小鼓・大鼓という3つの楽器についての解説と実演 ※参加の皆さんには、能楽師の楽器演奏に合わせて、手元でエア楽器体験</p> <p>◆能と狂言の演技体験 ワークショップでも体験した能楽の感情表現について、能と狂言の表現方法の違いを体験的に学ぶ</p> <p>◆演目解説 これから鑑賞する能と狂言の物語のみどころを楽しく解説</p> <p>(休憩10分)</p> <p>【第2部】能楽を観る！ 迫力の鑑賞体験(所要時間:40～45分)</p> <p>◆鑑賞①/狂言「柿山伏(かきやまぶし)」</p> <p>◆鑑賞②/半能「敦盛(あつもり)」</p> <p>◆まとめと質疑応答</p>							
	公演時間 100 分							
出演者	<p>※出演候補者多数のため、別紙にて一覧表を添付いたします</p> <p>【シテ方】 出演候補者32名のなかから、公演日期間により10名を選定</p> <p>【ワキ方】 出演候補者 約9名のなかから、公演日期間により2名を選定</p> <p>【囃子方】 出演候補者 約28名のなかから、公演日期間により3名を選定</p> <p>【狂言方】 出演候補者 約6名のなかから、公演日期間により3名を選定</p>							
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p>●観世三郎太(かんぜさぶろうた) 平成11年生まれ。二十六世観世宗家 観世清和の嫡男。父である二十六世観世宗家 観世清和に師事。5歳で初舞台を踏み、現在までに「石橋」「乱」「翁」「道成寺」「安宅」など数々の大曲を勤める他、海外でも公演。2023年のG7広島サミットでは、各国首脳の前で能を披露した。(一社)観世会副理事長。(一財)観世文庫常務理事。</p> <p>●藤波重彦(ふじなみしげひこ) 昭和39年生まれ。観世流シテ方能楽師 藤波重満の長男。父及び二十六世観世宗家 観世清和に師事。重要無形文化財総合指定保持者。(一社)観世会理事。(公社)能楽協会理事。(一財)観世文庫評議員。東京藝術大学教授。</p> <p>●坂口貴信(さかぐちたかのぶ) 昭和51年生まれ。観世流シテ方能楽師 坂口信男の長男。二十六世観世宗家 観世清和に師事。重要無形文化財総合指定保持者。(一社)観世会理事。(公社)能楽協会会員。東京藝術大学非常勤講師。</p>							
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 18 名 スタッフ: 3 名 合計: 21 名		運搬		積載量: 1 t 車長: 5.4 m 台数: 1 台			
本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無		前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出	
	9時	9時～11時		13時～14時40分	10分	15時～16時	16時	
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。								
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月		7月		8月		9月	
	0日		8日		8日		4日	
	10月		11月		12月		1月	
	4日		4日		8日		8日	
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					計		44日

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 一般社団法人観世会 】

ワークショップのねらい	室町時代に大成した能楽は、約700年の歴史を誇る伝統芸能です。ワークショップでは、その歴史の中で確立された独自の表現方法を、単に頭で理解するのではなく、身体を使って学ぶことで、参加する皆さんに能楽を身近に感じていただくことを目指しています。一見すると難解と感じられる表現も、すべてにおいて演技上の意味が込められています。長い時間をかけて洗練させてきた能楽の所作一つひとつを、経験豊富な能楽師が目の前で丁寧に解説し、本公演を楽しんでいただくための事前学習・体験の時間を楽しみながら作り上げていきます。		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	200名ほど
ワークショップ実施形態及び内容	<p>ワークショップでは観世流能楽師4名が学校に伺い、児童・生徒の皆さんとともに実際に身体を使いながら、能楽の基礎を学んでいただきます。</p> <p>◆【1:礼儀作法】 ワークショップの冒頭にあたり、児童・生徒の皆さんに日本の礼儀作法の大切さを説明し、能楽師とともに姿勢を直し「宜しくお願ひします」というご挨拶をおこなっていただきます。また、終了時には「ありがとうございました」のご挨拶でワークショップを締めくくります。</p> <p>◆【2:能楽を知る】 伝統芸能である能楽は、約700年の歴史があります。能楽の歴史、能と狂言の違い、舞台を鑑賞するときの約束事や能舞台の説明などを解説していきます。なお、ここでは能面や小道具等を実際にお見せしながら、能楽の歴史などを視覚的にご覧いただきます。</p> <p>◆【3:所作を体験する】 能楽には、独自の身体作法があります。ここでは能楽師の手本をもとに、「立ち方(カマエ)」、「歩き方(摺り足)」の体験を全員でおこなっていただきます。</p> <p>◆【4:謡の稽古】 本公演でご覧いただく能「敦盛」の謡の一節を、全員で声に出して稽古します。また、本公演ではお囃子と合わせて謡を体験していただきたく、当日までの学習用資料を配布いたします。</p> <p>◆【5:演技体験①/戦闘場面】 能「敦盛」の後半の大きな見どころである、修羅道(争いや苦しみが無限に続く世界のこと)において主人公の敦盛が熊谷次郎直実と戦っている場面の演技体験をおこないます。ワークショップでは代表者(20～30名)を選抜し、能楽師とともに舞台上上がっていただきます。</p> <p>◆【6:演技体験②/能の感情表現と演技】 能には、喜怒哀楽の感情をはじめとする様々な特徴的演技があります。能楽師が手本を示し、日本古来の感情表現や演技を参加する全員で体験していただきます。</p> <p>※ワークショップ・公演当日ともに、経験豊富な能楽師が全面的に指導・サポートいたします。 ※ご要望により、質疑応答などもおこなうことができます。</p> <p>(所要時間:休憩含め90分程)</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	ワークショップのプログラムは一方的な講義ではなく、能楽師と参加者が楽しみながら時間を共有することを目指しております。参加する児童・生徒の反応やペースを見つつ実施いたしますので、発育に合わせて、丁寧に実施して参ります。		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
本事業への応募理由	【公演団体名 一般社団法人観世会】
<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 弊会は、観世流の中心的役割を担う能楽団体です。代表理事・観世清和は室町時代に能楽を大成した観阿弥・世阿弥父子の流れを汲み、二十六世観世宗家(家元)として観世流のみならず、能楽界を牽引する重責を担います。</p> <p>本拠地「観世能楽堂」(東京・銀座)での公演を中心に日々、能楽界の発展を期すなか、若い世代への普及活動は弊会にとっても大きな課題のひとつであります。その取り組みの一環として令和元年より中央区教育委員会と連携し、区内の小学校を巡回する能楽普及活動をおこない、地元の子供たちに能楽の魅力を知っていただくワークショップを定期的実施しています。また、平成23年からは春夏冬の休みの時期に観世能楽堂にて「親子教室」を開催し、親子のコミュニケーションを図りながら能楽を体験していただく活動もおこなっております。</p> <p>上記事業は、幼少の子供たちに伝統芸能に親しんでもらうことを第一の目的とし、自国文化に対する関心を養うことを主眼としております。そのため、能楽を「体感」してもらうためのプログラムにより多くの時間を配分し、コミュニケーションにも長けた一流の能楽師と交流してもらうことに力を注いで参りました。</p> <p>これらの取り組みを更に発展させ、全国の小中学生に能楽の魅力を発信し、日本の伝統文化に直に触れる機会を提供することを企図し、今般、本事業に応募することといたしました。</p> <p>伝統芸術は、若年層には馴染みの少ない分野であると認識しております。そのため今回は、本事業で初めて能楽を鑑賞することを前提にワークショップ、並びに本公演の各プログラムを構築いたしました。能楽をまったく知らない子供たちに体験としての能楽を届けることで、伝統世界への理解を育み、舞台芸術としての能楽の認知を高めることを目指しております。また本プログラムでは、冒頭にご挨拶の時間を必ず設けております。一期一会の関係を大切に、相手を敬う真摯な気持ちをもつことは、日本文化の根幹をなすものと考えます。能楽体験を通じ、そのような立ち居振る舞いの大切さを伝えることも強く願っております。</p> <p>巡回公演事業が対象とする地域は全国規模で制限がなく、日頃、各種劇場を訪れることが難しい遠方の皆さんにも、本物の舞台芸術を提供するという目的を共有し、伝統芸能の継続的発展と、子供たちの健やかな成長を願い、本事業に取り組んで参る所存です。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>【本格的仮設能舞台】 本事業の対象は首都圏のみならず、遠隔地を含む日本全国の広範な地域に亘ります。限られた時間で効率的に移動する巡回公演のため、一部簡略化はございますが、体育館に組み上げる仮設能舞台は、実際の能楽堂舞台と同規模のものを用意いたします。舞台制作は、観世能楽堂の舞台技術部門の運営にも携わる株式会社能楽プロの協力のもとにおこないます。すべての舞台設備を合わせてもハイエース一台に納まる容量とし、大型トラックでの運搬は必要としないため、山間部や道幅の狭い住宅地に所在する学校地域にも大きな支障なく巡回することが可能です。</p> <p>【わかりやすい配布資料を用意】 ワークショップと本公演は、観世流の第一線で活躍する能楽師が伺います。特にワークショップでは、能についての歴史や演目解説をおこないながらも、身体を動かしながら能を体験的に楽しんでいただくことを第一の目的としております。そのため、事前に知っておいていただきたいこと、また短い時間のなかでは説明しきれない能の約束事などがあることも事実です。そこで、本事業にて何う学校の皆さま向けにそれらを丁寧に解説する資料を用意しております。イラストを交えながら、能楽をわかりやすく学んでいただける工夫をおこない、児童・生徒だけではなく、学校の先生や子供たちの各ご家庭の皆さんにも楽しんでいただける内容を心がけています。なお、小学校向けの配布資料は総ルビ入りの表記にて制作いたします。</p>

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	一般社団法人観世会】
出演者	<p>No.2「出演者」別添一覧表 ※__は日本能楽会会員(重要無形文化財総合認定保持者)</p> <p>【シテ方】 <u>山階彌右衛門</u> <u>観世三郎太</u> <u>浅見重好</u> <u>上田公威</u> <u>藤波重彦</u> <u>藤波重孝</u> <u>岡庭祥大</u> <u>北浪貴裕</u> <u>野村昌司</u> <u>武田友志</u> <u>角幸二郎</u> <u>清水義也</u> <u>坂井音雅</u> <u>木月宣行</u> <u>坂口貴信</u> <u>坂井音隆</u> <u>武田文志</u> <u>坂井音晴</u> <u>武田宗典</u> <u>新江和人</u> <u>金子聡哉</u> <u>佐川勝貴</u> <u>木月章行</u> <u>田口亮二</u> <u>武田祥照</u> <u>関根祥丸</u> <u>井上裕之真</u> <u>久田勘吉郎</u> <u>杉浦悠一朗</u> <u>武田崇史</u> <u>津村聡子</u> <u>寺井千景</u> <u>渡邊瑞子</u> <u>寺井美喜</u> 等</p> <p>(以上 32 名の中から公演日期間によりシテ方 11 名(舍利)または 10 名(安達原・敦盛)を選定する) (内 働き 1 名)</p> <p>【ワキ方】 <u>宝生常三</u> <u>福王和幸</u> <u>村瀬提</u> <u>村瀬慧</u> <u>舘田善博</u> <u>梅村昌功</u> <u>野口能弘</u> <u>大日方寛</u> <u>則久英志</u> 等</p> <p>(公演日期間によりワキ方2名(舍利・敦盛)または 3 名(安達原)(内 働き 1 名)を選定する)</p> <p>【囃子方】 <u>一噌隆之</u> <u>松田弘之</u> <u>槻宅聡</u> <u>飯田清一</u> <u>幸信吾</u> <u>幸正昭</u> <u>森澤勇司</u> <u>鶴澤洋太郎</u> <u>観世新九郎</u> <u>亀井広忠</u> <u>原岡一之</u> <u>安福光雄</u> <u>柿原弘和</u> <u>柿原光博</u> <u>高野彰</u> <u>小寺真佐人</u> <u>桜井均</u> <u>梶谷英樹</u> <u>小野寺童一</u> <u>杉信太朗</u> <u>熊本俊太郎</u> <u>田邊恭資</u> <u>亀井洋佑</u> <u>佃良太郎</u> <u>大倉栄太郎</u> <u>大倉慶之助</u> <u>林雄一郎</u> <u>金春惣右衛門</u> 等</p> <p>(公演日期間により囃子方 4 名を選定する)</p> <p>【狂言方】 <u>山本泰太郎</u> <u>山本則孝</u> <u>山本則重</u> <u>山本則秀</u> <u>三宅右矩</u> <u>三宅近成</u> 等</p> <p>(公演日期間により狂言方3名(敦盛)、2名(安達原・舍利) (内 働き 1 名)を選定する)</p>		